

《復職レポート》

復職レポートは、J D S Pの終了にあたって受講者自身がJ D S Pの取組み成果を取りまとめるものです。

事業主に対して行う終了報告の際には、体調・健康状態や通院・服薬の現状、J D S Pの受講状況、休職要因の分析や再休職予防策の検討結果などの報告が求められるため、これらをレポートの形式で整理します。

J D S Pで学んだ知識や気づきを振り返り、休職前の課題をふまえながらレポートにまとめあげる作業は、J D S Pの集大成と言えます。また、事業主にとって、復職レポートを通じて把握されたJ D S Pの取組み成果は、復職に向けた方針の検討や職場復帰支援プランの作成のための重要な材料の一つとなります。

【取組み時期・方法】

復職レポートの作成にあたっては、図 25 のとおり、事前に2つのワークシートを作成し、課題の整理や休職要因の分析、再休職予防策の検討などを行います。

まず、見学・体験時に、「復職に向けた取組み整理シート」(図 26、資料 3 参照)を通じて、職場復帰と再休職予防策を考えるうえでの課題を整理します。また、支援開始前の事業主との打ち合わせで事業主側の見解を確認し、支援期間を通じて随時見直します。

支援期間前半から中盤にかけて「休職の経緯と対処方法の整理シート」(図 27、資料 4 参照)を作成し、休職の経緯の振り返り、休職要因の分析を行ったうえで、各種プログラムで得た学びや「ジョブリハーサル」、「生活習慣・セルフケア」での体験・実践で得た気づきをもとに、再休職を予防するための対処方法について検討します。

それらをもとに、支援期間後半からJ D S Pの取組み成果を「復職レポート」として取りまとめます。

J D S Pでは、終了報告において

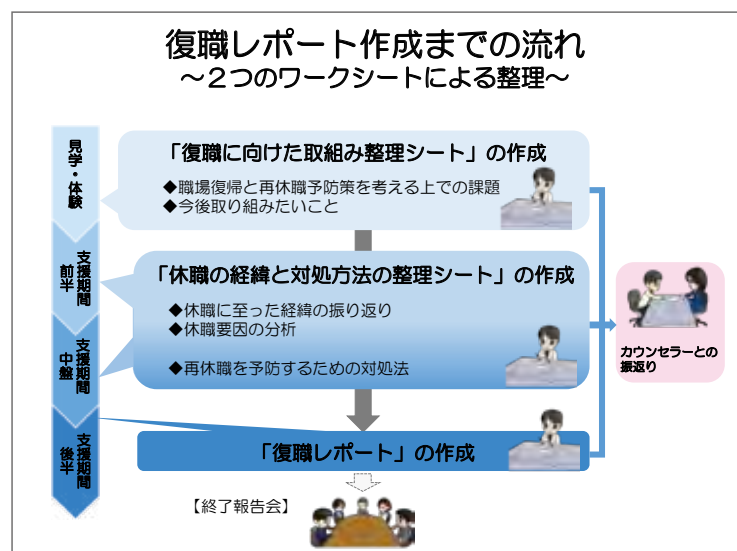


図 25 復職レポート作成までの流れ

図 26 復職に向けた取組み整理シート

図 27 休職の経緯と対処方法の整理シート(抜粋)

事業主から確認が求められる代表的な項目を受講者に紹介し、受講者はそれを参考にしながらパワーポイントやワード文書などでレポートを作成しています。受講者が作成した内容については、個別面談でカウンセラーと振り返り、内容を深めます。取りまとめた復職レポートは、終了報告会で受講者・事業主・支援者の三者で共有します。

【復職レポートの内容】

受講者が作成する「復職レポート」の様式例を図 28（資料 5 参照）に示します。

項目には、J D S P の受講状況や体調などの現状のほか、休職に至った要因分析や再休職予防策、今後の働き方、復職にあたっての希望などが含まれます。

【実施のポイント】

復職レポートの作成は、受講者が主体的にまとめることを基本としていますが、定期的なカウンセラーとの個別面談を通じて、J D S P の 4 つのテーマをふまえた多角的な分析ができているか、体験・実践しながら検討した具体的な行動レベルの対処策を示しているか、事業主の意向や見解をふまえているか、現実的か、簡潔か、といった視点で振り返り、客観的な視点を持った自己分析をうながします。

また、必要に応じて S S T の場面において事業主に復職レポートの内容を報告するシミュレーションを行い、内容や話し方を確認したり、受講者同士で助言しあいます。

【受講者と事業主の感想・効果】

受講者からは、「再休職予防策や今後の働き方を整理でき、復職への自信が持てた」、「復職後も再休職予防策や自分の目指す働き方を忘れないように、復職レポートを定期的に読み返したい」といった感想が聞かれています。

また、終了報告会で事業主からは、「休職の要因がしっかり分析されていて安心した」、「再休職予防策が具体的に整理されていてよく分かった」、「今後、復職先の部署と復職レポートの内容を共有して受け入れ体制を整えたい」などの感想が聞かれています。

受講者は、復職レポートの作成を通じて休職要因や再休職予防策の分析をふまえた復職後の働き方の指針を明確にすることができます。また、復職レポートを通じて受講者が復職に関する意思や希望、現状を整理して伝えることで、事業主は復職判断や復職後の配置や条件、受け入れ体制、フォローアップの視点などの検討を具体的に進めることができます。

復職レポート（様式例）

1：J D S P 受講状況について

(1) 受講期間：〇年〇月〇日～〇月〇日
 (2) 出席状況：〇年〇月〇日現在、全〇日中、〇日出席
 ※欠席〇日(理由：)、遅刻〇日(理由：)、早退〇日(理由：)

2：体調管理について

(1) 生活リズム、体調、気分の状況
 (2) 集中力・作業耐性の現状
 (3) 通院・服薬状況
 (4) 主治医の意見（主治医の復職に関する見解、復職後の仕事上・生活上の注意事項など）

3：J D S P で学んだこと、気づきや感想

(1) J D S P での取り組み内容
 ※主な活動を列挙するなど

(2) 休職経緯と要因分析
 ア 休職に至った経緯の客観的な振り返り
 イ 休職に至った要因
 ※「生活習慣」、「ストレス対処」、「コミュニケーション」、「仕事の取り組み方・働き方」の4つのテーマから要因を検討する。

(3) 再休職予防策と今後の働き方
 ※復職後、再休職しないためにどうすればいいか、4つのテーマに沿って具体的な行動で示す。
 (例)
 × 働き過ぎて疲労を溜めないよう気をつけます。
 ○ 疲労のサインは「〇〇」「〇〇」です。これらのサインが出たら、〇〇をして、ストレス・疲労を解消します。業務面では、上司に報告して、〇〇するようにします。
 × 自分で抱え込む傾向があるので、早めに相談します。
 ○ 毎日、上司に担当業務について報告します。仕事がたまっている場合は、納期調整について相談します。上司が不在の際には、〇〇する用意をします。

4：復職にあたっての希望(必要に応じて)

(1) スケジュール
 (2) 勤務条件（勤務時間など）
 (3) 配属、職務
 (4) 職場環境面で配慮をお願いしたいことなど

図 28 復職レポート（様式例）